

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を!

'83年11月来館者数	13,022名
通算1カ月平均来館者数	4,813名
当月1日平均来館者数	501名
通算来館者数	433,191名

悟りの心を 平和運動に結びつけて

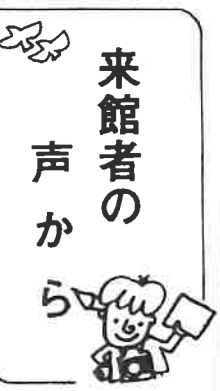
壬 生 照 順

日本山妙法寺の藤井上人の核兵器廃絶、核戦争阻止にささげる努力は大変なものです。一九三三年一月、インドのワルダにおいてガンジー翁と親交を結ばれ、仏教の不殺戒とガンジーの真理把持の精神を一体にして、世界平和に大きな足跡を印刻されました。ガンジーはインドでは神と崇められ、民族の救済主である。武器を使用せぬ非暴力運動の父である。藤井上人は宗教者平和運動の指導者であるばかりでなく、世界の反戦・反核の父である。その九十余年の生涯を人民のために衆生救済のため身を捧げてこられた真に尊い方である。今も現にすばらしい信仰の迫力と行動力をもって私たちにせまる。去る十一月二十日、英国、ウィーン、インドの旅(一五日間)を終えて帰られ、各地に仏舎利塔が建立された報告をされた。ウィーンではオーストリアの婦人の発起で完成し、ロンドンでは市議会全員が賛同して着工される由。その他いくつかの仏舎利塔の建立が準備されているとのこと。仏舎利塔は一仏塔ではなく、人類平和と核反対を祈るシンボルとして核兵器反対、核戦争阻止の国民運動へ発展している。いや世界の反戦・反核の中心運動にさえなっている。

特に私たち宗教者としては反省せねばならぬ点がある。それは一九五四年(昭和二十九年)四月に日本山妙法寺が中心となって、世界平和者会議を開いた。そのとき集まった各国の代表——その中にはスリランカの長老サラナンカラ比丘、カナダのエンディコット牧師(レーニン平和賞)、英国のカンタベリー副僧正など第一級の平和活動家が集まった。例の三・一五キニ被災はこの年三月十五日頃発表され、世界をふるわせた。反原水爆の叫びは日本にも世界にも強くあがった。我々会議参加者は、

「原水爆実験反対」を決議して内外に発表した。国際会議で「水爆実験反対」を決議したのは我々が早かった。そしてこの問題を討議したり、久保山さんの入院先、国立第一病院を見舞ったりした。その後原水爆禁止世界運動に協力して、宗教者の組織をつくり今日の日本宗教者平和協議会に発展した。仏教、新旧キリスト教、教派神道(天理教・丸山教など)と連絡して宗教者の統一戦線を進めているが充分とはいえない。三・一五キニデー、墓前祭を通じて地域、平和、婦人、学生などの全国組織や地元民へのよびかけ、日本仏教会傘下の各宗仏教会にもよびかけているが必ずしも活発とはいえない。藤井上人はこの点を厳しく悟されました。「この頃は平和運動をやるより渡世の坊さんが多くなってきました。渡世の坊さんだけでは仏教は滅びます。」私も渡世の僧の一人で耳の痛いお話しでしたが、導師のよき戒告として頂き、励みにいたしましたものです。

(日本宗教者平和協議会理事長・第五福竜丸平和協議会顧問)



来館者の声から

原爆の写真を見たが、なんとも言えず信じられなかった。目をそむけたくなるような写真がたくさんあったが、がまんして事実を見ようと思った。私たちが、これらの世界を考える必要があると実感した。 東大附属中 立花一美

子どもたちの手紙から

第五福竜丸を見させてくれてどうもありがとうございました。第五福竜丸は、いろいろなところへ行って魚をとっていたら、たぐさんのほうしやのうをあげてぼろぼろになってしまいました。ぼくは、ぼろぼろになった船を、もとのとおりになおしたほうがいいと思います。そして海にもどしてあげれば、またいろいろなところへいったりできるけど、江東区に感じさせているからとどおりにはもどせないと思いました。

私は原爆写真を見てとてもかわいそうだと思います。それからぼくは金にお金を入れたけど、お金で命がもどってくればいいのになあと思った。それと戦争だけがして今も病院にかよっている人も、死にたいぐらい、いたいおもいをしてる人もかわいそうだと思います。 小四 菅野真由美

船の保存について。エジプト等の木造船はシリコン処理してあります。

江東・第四大島小 服部真久

第五福竜丸は、ぼくたちが予想したより大きかったです。だいたい部分が木で作ってあるので、びっくりしました。ぼくたちは木で作った大きな船を見たことがはじめてなので、またまたびっくりしました。第五福竜丸はぼろぼろだったけど、かっこよかったです。

狛江第三小 元永大輔 八幡慎一

ですが、この方法が利用できればと思います。永久保存をお願いします。

核兵器は恐ろしいと漠然とほとんどの人々は知っている。しかしその恐ろしさをもう一歩、深く知ろうとする人は意外に少なくひとごとのように思っているのが普通と思われる。核兵器廃絶の運動の起点となるこの展示館は地方では余り知られていない。より広く地方への宣伝方法を構じられることを願います。なお希望として展示物内容紹介の写真パンフレットを販売されることも。

熊本県 松村恵文

原爆の写真を見るのがこわかったけど、見なくちゃいけない気がした。こんなことがあったのを知らないで終らせたくないから。

第12回新春風あげ大会

日時 一九八四年一月十五日
午前11時～午後2時
場所 第五福竜丸展示館前広場
たこあげ競争、たこのコンクール(デザイン・アイデア)など
参加自由(当日受付で参加券を受け取る)賞品多数
後援 東京都
主催 第五福竜丸平和協会

編集後記

▼本格的な修理が来年度から行われることになった福竜丸。そのための測量調査にむけ、船体内の清掃と補強の工事が十一月末よりすすめられた。一週間余、連日十人ちかい作業員の奮闘で、展示館の外にはトラック二台分はあろうと思う、朽ちた材木やヘドロのかたまりが山積みされた。その多量さに驚くばかりである。

▼船体の中にはいり、船室、機関室、魚槽をみる。もう幽霊船のおもかげはすっかりなくなっている。静まりかえった船室の中は、木と土のかおりがただよってくる。明かりを消し、たたずむと、天井の透き間のあちらこちらから光りがさしこんでくる。展示館の屋根が見えるのである。この中で、福竜丸のこと、遠い海のこと、まぐろ操業などを子どもたちと語りあいたいものである。

▼もう師走。来る一九八四年はビキニ水爆被災30周年を迎える。新聞社、テレビなど展示館への取材にまじえて、労働組合、民主団体の取材もあり、新年号のトップは福竜丸で飾られるとのこと。(も)

十一月に七七校、一万余名の見学

子どもたちに見守られ、船の修理もすすむ

朝九時半に展示館は開館するがもう外には学校団体が待ちうけている。ドアを開けると静まりかえっていた館内は子どもたちの歓声が響きわたり、どっと人の波が押し寄せる。十一月中旬あたりから毎日のようにこの光景がみられ、忙しい日々が続く。夢の島の駐車場には、ひっきりなしにバスが子どもたちを連れてやってくる。一日十数校、二千名ちかい見学者が



訪れる日もあり、館内は、黄色や緑や青の学校帽で埋めつくされることもある。ほとんどが十歳前後の四年生。生まれて始めて木造船を見る子どもたちの目は輝やいていいる。「水爆にやられたからポロポロになったの、かわいそう」と女の子。男の子は「もう、はしれないのかなあ」と心配と期待と胸をふくらませ、福竜丸に語りかける。館内の感想文ノットに自分の思いを書きしるし、福竜丸スタンプもなかなか好評で自分の番がくるのを待っている子どもたち。

先生も受けもちのクラスを案内、まとめるのにおお忙し。あとには別の学校団体が列をつくっている。見学後、みんな話しあっていた。子どもたちの感想文も寄せられ、「子どもともども放射能の恐ろしさを人ごとでなく感じた」と先生の手紙も同封されていた。

十一月の学校団体数は七七校一万余名という、展示館開館以来の最高の記録となった。

相づく見学者の応接の合い間をぬって、今年二回目の展示替作業

にも力がそそがれた。「核戦争が起ったら…」の組パネルや、スウェーデン王立科学アカデミーの研究報告を活用した数点のパネルも完成した。また、ビキニ事件を伝える写真パネル数点も補強して模様がえがされた。

こういふなか、ビキニ水爆被災三十周年をまえにして、第五福竜丸の本格工事にむけての船内清掃・応急修理が十一月二十八日から開始され、一週間にわたり、朽ちた木材や土砂が作業員の手によって外へ運ばれた。

これらの作業は、子どもたちに見守られながら続けられていった。十二月になっても社会科学見学は後をたたく多くの子どもを迎えた。

第五福竜丸平和協会第57回

理事会決定事項へ概要

- ▼83・11・28 学士会館／出席理事 三宅泰雄・檜山義夫・斎藤鶴子・猿橋勝子・田沼肇・本多喜美。
- (1) 第56回理事会議事録承認 略
- (2) 活動報告承認 略
- (3) 福竜丸だより編集委の報告と新年号の編集計画等 略
- ▼「ビキニ水爆被災30周年を迎えて」を中心テーマに協会関係者、当時の科学者をはじめ若干の方々から寄稿を求め特集号を作成する。名刺広告も集める。第五福竜丸乗組員との接触を強め、手記、証言などの取材をひきつづき行なう。
- (4) 当面の活動計画 (イ) 船体修理 (船室内) が十二月中旬まで行なわれる (ロ) 資料室建設につき対都交渉を強め、田沼理事を中心に煮詰

丸の本格工事にむけての船内清掃・応急修理が十一月二十八日から開始され、一週間にわたり、朽ちた木材や土砂が作業員の手によって外へ運ばれた。

これらの作業は、子どもたちに見守られながら続けられていった。十二月になっても社会科学見学は後をたたく多くの子どもを迎えた。

め、明春一月都知事と理事とのこんだん、申し入れを実現していく

- (イ) 東大総合研究資料館等のビキニ事件関連資料の掌握、見学など檜山副会長を中心にする。
- (ロ) 次回理事会後見学を行なう。
- (ハ) 「草土文化」編集部より申し入れの「写真集・ビキニ被災の証人第五福竜丸」の発行にかんし写真収集、原稿執筆、契約など田沼理事を中心にして接洽をすすめていく。
- (ニ) ビキニ水爆被災30周年の記念集会を含む記念行事について原案を会長中心に作り、次回理事会で決定する。
- (ヘ) 次回理事会は一月二十三日、学士会館別館。
- (ホ) 賛助会員の拡大 前理事会以降17名の加入があったが、理事、評議員のせいせんをはじめひきつづき拡大につとめる。
- (六) 上半期中間収支報告承認 略

本当に「本物」か ビキニのクリーンアップ

十一月二十八日付読売新聞は、「ビキニ帰島、今度は本物? 放射能汚染は四年で除ける、その費用は一億ドル」と米議会「ビキニ環境回復委員会」(委員長コーン・ハーバード大教授)の調査報告を伝えた。

ビキニは一九六八年ジョンソン大統領によってその安全を保証され、六九年から帰島がはじまった。しかし、一九七八年には残留放射能のため再び島を捨て流浪の民となってしまった。

報告によると放射能除去は四年で完了としているが果たして安全な生活ができる環境に居るのだろうか。かつて米政府機関による

この地域の放射能調査や住民の健康上の安全性の予測は誤算の連続であり、同時に意図されたものであることはよく知られている。

ロンゲラップやウトリックの住民は、死の灰の残る島へ「もう安全だ」といって帰されたが死の灰を浴びなかったものも被ばく者となってしまう。大々的に放射能除去が行なわれたエニウェトク環礁は、すでに多くの島民が帰っている。ところが、この島が完全に安全だという者は米政府関係者以外にはあまり多くない。

今回のビキニ復興計画はビキニ島民にとって大変喜ばしいことだが、この計画が米政府機関のお抱え「専門家」たちだけによって作られたもの

だとしてたら再び島民は被ばくさせられるにちがいない。お抱え「専門家」を監視する別の専門家集団の関与なしには真に安全なビキニの回復は実現しないであらう。

汚染、4年で除ける

核爆後から35年ぶり



「三八年ぶりに日本に来て、復興のめざましさに驚いたが、超高层建筑のキラキラ輝くガラスを見ていると、被爆後の光景と重なりガラスの閃光に見えてくる」

戦後、スッサン氏が撮影したフィルムは、アメリカではマル秘とされ、いつしか保管場所も不明とされていた。スッサン氏はその後半生を、フィルムを探し、公開することにすべてを捧げた。そしてその願いは、その後日本人の手によって一〇フィート映画運動で結実していった。

その一〇フィート運動の最後の作品で、テネシー州に住む米被爆復員兵協会の会長、ジョン・スミザーマン氏が紹介されている。スミザーマン氏は、一九四六年七月

ジョン・スミザーマン氏 追悼

10フィート運動映画祭に 参加して

十二月一日、渋谷パルコの西武劇場で「子どもたちに世界に、被爆の記録を贈る会」が制作した七本の映画の上映会が開かれた。

映画祭には、元戦略爆撃調査団のハーバート・スッサン氏も参加し、あいさつをした。

「三八年ぶりに日本に来て、復興のめざましさに驚いたが、超高层建筑のキラキラ輝くガラスを見ていると、被爆後の光景と重なりガラスの閃光に見えてくる」

戦後、スッサン氏が撮影したフィルムは、アメリカではマル秘とされ、いつしか保管場所も不明とされていた。スッサン氏はその後半生を、フィルムを探し、公開することにすべてを捧げた。そしてその願いは、その後日本人の手によって一〇フィート映画運動で結実していった。

その一〇フィート運動の最後の作品で、テネシー州に住む米被爆復員兵協会の会長、ジョン・スミザーマン氏が紹介されている。スミザーマン氏は、一九四六年七月

「日本の親愛なるみなさん、私たちの辛い経験が再び起こらないことを祈ります。全世界が核から解放される日が、いつか、必ず来ることを。」

アメリカのABCテレビが制作した映画「ザ・デー・アフター」(その翌日)が今話題になっている。日本ではNHKが、贈る会の今後すすめる「ピース・スタイル運動」に全面的に協力し、これまで放映した、平和と反核に関するフィルムすべてを提供することになった。映像によって、平和と反核を訴えることへの期待はますます大きくなっていく。館内の一角にあるビデオコーナーは、今多くの見学者に利用されている。ささやかながら充実させていきたい。(は)

「日本の親愛なるみなさん、私たちの辛い経験が再び起こらないことを祈ります。全世界が核から解放される日が、いつか、必ず来ることを。」

アメリカのABCテレビが制作した映画「ザ・デー・アフター」(その翌日)が今話題になっている。日本ではNHKが、贈る会の今後すすめる「ピース・スタイル運動」に全面的に協力し、これまで放映した、平和と反核に関するフィルムすべてを提供することになった。映像によって、平和と反核を訴えることへの期待はますます大きくなっていく。館内の一角にあるビデオコーナーは、今多くの見学者に利用されている。ささやかながら充実させていきたい。(は)